

2025 年度 日本建築学会近畿支部

第 2 回 親と子の都市と建築教室「京町家の伝統技術を学ぶ」 終了報告書

日時：2026 年 1 月 25 日（日）13:30～16:00

場所：学校法人京都建築学園京都建築専門学校および近隣の町家住宅改修現場

本企画は、昨年 8 月に実施した小中学生と保護者を対象とした“親と子の都市と建築教室「京町家の伝統技術を学ぶ」”の実践編である。夏の教室では京都建築専門学校の 1 階ピロティにおいて模型を用いて小舞編みおよび荒壁塗りを行ったが、本企画では実際に改修工事を行っている町家を対象に荒壁塗りを行った。

本企画では今年度夏の教室を受講した親子を対象に案内を行い、当日は 1 組欠席があったものの児童 8 名、保護者 7 名、学生ボランティア含めたスタッフ 10 名の計 25 名で実施した。本企画は日本建築学会近畿支部および学校法人京都建築学園京都建築専門学校による共催で実施された。

雪がちらつく天気の中、参加者とスタッフは午後 13 時 30 分までに京都建築専門学校本校舎 3 階に集まった。はじめに京都建築専門学校の佐野校長より開会のあいさつや当日の進行、注意事項などの説明があった。次に本教室担当委員の常議員や、緒方氏（近畿支部）、池谷氏（京都市景観・まちづくりセンター）がそれぞれ挨拶を行った。また、参加者一組ずつに意気込みを述べていただき、子どもたちからは「夏の教室で習ったことを覚えているか不安だが頑張る」などの声があった。その後、参加者はヘルメットを受け取り本校舎の近隣の町家改修現場へ移動した。

町家改修現場へ到着し佐野校長が対象の町家について簡単な説明を行った後、子どもたちに小舞編みまで施した壁を割り当て荒壁塗りを開始した。子どもたちははじめは鋺や鋺板の持ち方に戸惑いを見せたもののすぐに荒壁の塗り方を思い出し、黙々と丁寧に作業をしたり兄弟で協力して土壁を塗ったりなど各々のやり方で土壁を塗っていった。壁の中段から低いところの土壁塗りを子どもたちが担当し、上部は保護者やスタッフが作業を行った。子どもたちはアウターをどろどろにしながら一生懸命に土を壁に塗り付けていた。気温は低かったものの現場が街区の中にあり風が弱かったことや参加者の熱気もあり、参加者は凍えることなく楽しそうに土壁塗りを行っていた。

途中で路地再生町家改修事業に関連する見学者の団が来訪することもあったが、無事用意した壁を全部塗り終えることができた。土壁塗りを終えた後は現場に用意した火鉢を使って餅を焼いてぜんざいを作り、温かいお茶とともに参加者でいただいた。子どもたちは火鉢の周りに集まり、夏の教室以来でほぼ初対面にも関わらず皆で楽しそうに餅を焼いていた。

土壁塗りを終えぜんざいをいただいた後は本校舎 3 階に戻り、少し休憩をした後に本日のまとめを行った。参加者各組に本日の感想を述べていただき、「はじめから土壁塗りができて楽しかった」などの声をいただいた。仁井常議員（京都大学）による全体講評の後、佐野校長から挨拶をいただき、第 2 回土壁塗り教室を終了した。

本企画は例年行っている土壁塗り教室とは異なり、実際の町家において荒壁を施工し人の居住空間を作り、また自分で作ったものが長く京都の町に残るといっても建築的な体験であり、子どもたちにとって貴重な経験になったと考える。今回土壁塗りを行った町家が完成した後に見学会も開催する予定であり、そこでも子どもたちは建築というものに対する実感を深める機会になると考える。本企画は京都建築専門学校、京都市、町家の施主の多大なご協力のもとに実現し無事成功裏に収めることができた。関係者各位に感謝の意を表す。

日本建築学会近畿支部 常議員  
長嶋史明（文責）・仁井大策・杉野未奈・稲益博行

